

ユダの手紙

初代教会における異端と今

聖書フォーラムキャンプ in 札幌



メッセージ：中川健一

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

<http://harvesttime.tv>

「ユダの手紙」

中川健一

はじめに

- (1) 聖書フォーラム運動の広がり
 - ①聖書は靈感を受けて書かれた誤りなき「神のことば」である。
 - ②ヘブリスの聖書解釈
 - ③「聖書研究から日本の霊的覚醒（目覚め）が」
 - ④学びと行動の両輪が必要である。

- (2) 異端について
 - ①英語で「cult」あるいは「heresy」である。
 - ②異端の教えは、聖書フォーラム運動にとって大いなる脅威である。
 - ③そればかりか、健全な教会の成長と神の国の拡大を妨害する要因でもある。

- (3) 異端の定義
 - ①その宗教の本来の教えを歪曲化する非正統的な組織やグループのことである。
 - ②キリスト教の文脈で言うと：

「聖書の基本的真理の中のひとつでも否定するなら（通常は複数の真理を否定する）なら、その組織やグループは異端である」

「使徒たちの教えから逸脱したり、その教えを否定したりするなら、その組織やグループは異端である」
 - ③異端は、キリスト教の基本的教えと異なることを教えながら、自らはキリスト教であると主張する。

- (4) 異端の問題は、初代教会の時代から今日に至るまで続いている。
 - ①1 ヨハ4：1～3
 - 1 愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。
 - 2 人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。
 - 3 イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。

- ②グノーシスという異端が広がりつつあった。
 - * 霊は善、肉は悪と考えた。
 - * 肉において為すことは、霊には影響を与えない。
 - * 神の子が肉体を取るはずがないとも考えた。
- ③イエス・キリストの受肉を信じるのが、異端と戦うための武器である。

(5) ユダの手紙

- ①執筆年代は、67～80年の間だと思われる。
- ②読者は、パレスチナに住むユダヤ人たちである。
- ③ユダヤ人が知っている用語を説明なしに使用している。
- ④ユダの手紙の内容は、現代的適用を多く含んでいる。

アウトライン

- I. あいさつ (1～2 節)
- II. 背教の教えの内容 (3～16 節)
 - A. 背教の教えとの戦いの緊急性 (3～4 節)
 - B. 過去の背教者たち (5～7 節)
 - C. 現在の背教者たち (8～16 節)
- III. 背教を避けるための指針 (17～23 節)
 - A. 使徒たちの教えを思い起こせ (17～19 節)
 - B. 自分自身の霊的成長に励め (20～21 節)
 - C. 隣人に恵み深くあれ (22～23 節)
- IV. 頌栄 (24～25 節)
- V. 結論
 - A. 7つの命令
 - B. 現代の異端

ユダの手紙から、背教の教えの内容と勝利の秘訣について学ぶ。

1. あいさつ (1～2 節)

1. 1 節

1 イエス・キリストのしもべであり、ヤコブの兄弟であるユダから、父なる神にあって愛され、イエス・キリストのために守られている、召された方々へ。

(1) 著者について 3 つの可能性あり。

「ヤコブの兄弟であるユダ」

- ①イエスの異父兄弟のヤコブ
- ②12 使徒のひとりであるユダ (タダイ)
- ③バルサバと呼ばれるユダ (使 15 : 22)

(2) 「イエス・キリストのしもべ」

- ①私的権威に基づいてこの手紙を書いているのではない。
- ②イエス・キリストのしもべ (デューロス) であることがすべてである。

(3) この手紙の受け手の 3 つの特徴

①「召された方々」

*過去の恵み

*信者は、神の権威と選びによって救いに召し出された。

・ロマ 1 : 6

⁶ あなたがたも、それらの人々の中であって、イエス・キリストによって召された人々です、——このパウロから、

・ロマ 8 : 30

³⁰ 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。

・1 コリ 1 : 24

²⁴ しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。

*神の選びによる召しがないければ、誰も救われない。

②「父なる神にあって愛され」

*現在進行形の恵み

*「愛され」という動詞は、過去から現在に続く愛を示している。

③「イエス・キリストのために守られている」

*「イエス・キリストにあって守られている」という訳も可能である。

*この言葉は、将来の祝福を保証している。

・1 テサ 5 : 23

23 平和の神で自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだは完全に守られますように。

・ 2 テモ 1 : 12

12 そのために、私はこのような苦しみにも会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。

・ 1 ペテ 1 : 5

5 あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現されるように用意されている救いをいただくのです。

(4) ユダが教える救いの3つの特徴

- ① 聖徒を召すのは、聖霊の役割である。
- ② 愛は、父なる神によって示される。
- ③ 聖徒を守るのは、子なる神の役割である。

(5) これが正統的な救いの内容である。

- ① この3点セットは、異端の教えに対抗するための最高の武器である。
- ② これを自分のものとするなら、背教の嵐が吹いても、確信と平安が奪われることはない。

2. 2 節

2 どうか、あわれみと平安と愛が、あなたがたの上に、ますます豊かにされますように。

(1) ユダは、読者に深い愛と関心を示している。

- ① あわれみ (mercy) (エレオス)
- ② 平安 (peace) (エイレイネイ)
- ③ 愛 (love) (アガペイ)

(2) あわれみ

① ヘブ 4 : 16

16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

* 苦難の日に私たちを支えてくれるのは、神のあわれみである。

(3) 平安

①ピリ 4：6～7

- 6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。
- 7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

*悪や異端の嵐が吹き荒れても、神の平安は心に静けさをもたらしてくれる。

(4) 愛

①ロマ 5：5

- 5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

②1ヨハ 4：15～16

- 15 だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにあります。
- 16 私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。

*神の愛は、私たちをあらゆる危険から守ってくれる。

3. 2種類の3点セット

(1) 信者は、「召され」、「愛され」、「守られている」人々である。

①それぞれ、聖霊、父なる神、子なる神の働きである。

(2) 「あわれみ」、「平安」、「愛」が祝福の本質である。

①この3つのキーワードによって、この手紙の内容を紹介している。

(3) 異端の教えに惑わされている人々

①2つの3点セットを知らない人々である。

②彼らは、救われていない。

③その人たちのことも思いつつ、ユダはこの手紙を書いている。

II. 背教の教えの内容 (3～16 節)

A. 背教の教えとの戦いの緊急性 (3～4 節)

1. 3 節

- 3 愛する人々。私はあなたがたに、私たちがともに受けている救いについて手紙を書こうとして、あらゆる努力をしていましたが、聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勸

める手紙を書く必要が生まれました。

- (1) ユダは、もっと楽しいテーマについて手紙を書こうとしていた。
 - ①「私たちがともに受けている救いについて」
 - ②栄光に富んだ救いについて書くのは楽しいことである。
 - ③彼は、あらゆる努力をしていた（ひたすら願っていた）。

- (2) しかし、緊急事態が発生した。
 - ①彼は、聖霊の促しを感じ、書く内容を変えた。
 - ②聖徒たちに、戦いに備えるように勧告する内容である。
 - ③この言葉には、権威を感じる。

- (3) 「聖徒にひとたび伝えられた信仰」
 - ①これは、使徒たちの教えのことである。
 - ②「once for all」とは、「一度限り、決定的に」である。
 - ③神の啓示は完了した。何もつけ加えてはならない。
 - ④「新しい教えは真理ではない。真理であるなら新しくはない」
 - ⑤異端との戦いの最初のステージは、「聖書の靈感」である。
 - ⑥聖書と同じ権威を持つ聖典が他にもあると言うなら、それは異端である。

2. 4 節

4 というのは、ある人々が、ひそかに忍び込んで来たからです。彼らは、このようなさばきに会うと昔から前もってしるされている人々で、不敬虔な者であり、私たちの神の恵みを放縱に変えて、私たちの唯一の支配者であり主であるイエス・キリストを否定する人たちです。

- (1) 緊急事態とは、ある人々が信者の中に忍び込んで来たということ。
 - ①表面的には信者のような顔をしているが、実態を隠している。
 - ②彼らは最初から聖徒の群れに属していない。

- (2) 「ある人々」の特徴
 - ①昔から裁きに会うことが決まっている。
 - *彼らは、自らの罪と不従順のゆえに滅びる。
 - ②不敬虔な者
 - *不信仰な者
 - ③神の恵みを放縱に変える者
 - *キリストにある自由を放縱に変えている（無律法主義）。
 - *「肉体は神の作品ではないので、欲望に従って生きることには問題はない」
 - *放縱と誤った教理とは、連動している。
 - ④イエス・キリストを否定する者

- *キリストの権威
- *キリストの神性
- *キリストの贖いの死
- *キリストの復活

- (3) 今もこのような人々がいる。
- ①キリスト教界の指導者たち（牧師、宣教師、神学者）の中にいる。
 - ②自由主義神学のキリストは、聖書のキリストとは異なる。
 - ③新正統主義のキリストは、聖書のキリストとは異なる。
 - ④誰であっても、キリストが持つ特徴を否定するなら、その人は異端である。

B. 過去の背教者たち (5～7 節)

1. 5 節

5 あなたがたは、すべてのことをすっかり知っているにしても、私はあなたがたに思い出させたいことがあるのです。それは主が、民をエジプトの地から救い出し、次に、信じない人々を滅ぼされたということです。

- (1) 背教者に対する神の扱いは、明白である。
- ①3つの例が挙げられる。
 - ②すべて旧約聖書からの例である。
 - ③読者が、ユダヤ人信者であることを示している。
- (2) 荒野のイスラエルの民
- ①神は彼らにカナンの地を与えると約束された。
 - ②それだけで十分な保証になっている。
 - ③しかし、カデシュ・バルネアにおいて民は否定的な報告を信じた。
 - ④その結果、エジプトを出た時に20歳以上であった民は荒野で滅びた。
*例外は、カレブとヨシュアだけであった。

2. 6 節

6 また、主は、自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。

- (1) 罪を犯した天使たち
- ①サタンの墮落とともに、天にいた天使の3分の1が墮落した。
 - ②しかし、サタンと墮天使は、今も神の計画を破壊するために動き回っている。
 - ③「暗闇の下に閉じ込められた」とは、どういう意味か。

(2) 創 6：1～7

- 1 さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、
- 2 神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。
- 3 そこで、【主】は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は、百二十年にしよう」と仰せられた。
- 4 神の子らが、人の娘たちのところに入り、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。
- 5 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。
- 6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。
- 7 そして【主】は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」

- ①人の娘たちと結婚した墮天使たち（神の子ら）がいた。
- ②その結果、邪悪で強力なネフィリムという異常な子孫が誕生した。
- ③これが、大洪水の裁きを招いた。
- ④「自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたち」とは彼らのことである。

(3) 2 ペテ 2：4

- 4 神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。

3. 7 節

- 7 また、ソドム、ゴモラおよび周囲の町々も彼らと同じように、好色にふけり、不自然な肉欲を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受けて、みせしめにされています。

(1) ソドム、ゴモラおよび周辺の町々（アデマ、ツェボイム）の罪

- ①「彼らと同じように」とは、6 節の墮天使たちと同じ罪を犯したということ。
- ②好色の罪、不自然な肉欲を追い求める罪である。
- ③ロマ 1：26～27 参照
- ④今日でも、聖書信仰を逸脱した者が同性婚の合法化を主張することが多い。

(2) 彼らは「永遠の火の刑罰」を受けて、後の世代のための見せしめとなった。

- ①この刑罰が永遠だというわけではない。
- ②その規模と激しさが、永遠の火の刑罰を予表しているという意味である。
- ③偽教師たちは、燃える火の池に投げ込まれる。

C. 現代の背教者たち (8～16 節)

1. 8 節

8 それなのに、この人たちもまた同じように、夢見る者であり、肉体を汚し、権威ある者を軽んじ、栄えある者をそしっています。

(1) ユダは、ここから現代の背教者に話題を変える。

①彼らは夢想家であり、現実的ではなく、夢の世界で生きている。

(2) 彼らの3つの特徴

①肉体を汚す (ソドムとゴモラの罪)。

②権威ある者を軽んじる。

③栄えある者をそしる。

*神であれ、天使であれ、人間であれ、およそ権威というものに反抗する。

2. 9～10 節

9 御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて、悪魔と論じ、言い争ったとき、あえて相手ののしり、さばくようなことはせず、「主があなたを戒めてくださるように」と言いました。

10 しかし、この人たちは、自分には理解もできないことをそしり、わきまえない動物のように、本能によって知るような事からの中で滅びるのです。

(1) 天使ミカエルは、自分の権威の領域を心得ていた。

①モーセのからだについて悪魔と論じ、言い争った。

②相手ののしり、裁くようなことはしなかった。

③「主があなたを戒めてくださるように」と言い、裁きを主に委ねた。

(2) この情報は聖書には記されていない。

①伝承として伝わったか？

②聖霊による啓示か？

(3) 考えられる争いの原因

①モーセのからだは、神ご自身によってモアブの野に葬られた。

②その場所がどこか、誰も知らない。

③悪魔はそれを知りたがった。

④イスラエルの民がモーセの骨を拝むように仕向けようとした。

(4) 現代の背教者たちは、自らの領域を超えている。

①彼らは、神の啓示を理解することができないのに、それをそしる。

②彼らが得意とするのは、本能に従って生きることである。

③彼らは、放縦な生活の中で滅びていく。

3. 11～13 節

- 11 ああ。彼らはカインの道を行き、利益のためにバラムの迷いに陥り、コラのようにそむいて滅びました。
- 12 彼らは、あなたがたの愛餐のしみです。恐れげもなくとも宴を張りますが、自分だけを養っている者であり、風に吹き飛ばされる、水のない雲、実を結ばない、枯れに枯れて、根こそぎにされた秋の木、
- 13 自分の恥のあわをわき立たせる海の荒波、さまよう星です。まっ暗なやみが、彼らのために永遠に用意されています。

(1) 背教者たちの墮落には加速度が付く。

①「カインの道を行く」(創4章)

* 血の犠牲を拒否する道

* 神が用意された清めを拒否し、人間の業で神を満足させようとする道

②「バラムの迷いに陥り」(民22～24章)

* 神への奉仕をビジネスに変え、豊かになろうとする道

* バラムはバラクから金を受け取り、5回もイスラエルを呪おうとした。

* しかし、神がそれを許さなかった。

* 最終的には、イスラエルはモアブ人の女たちと姦淫にふけた。

③「コラのようにそむいて滅びました」(民16章)

* コラ、ダタン、アビラムは、モーセとアロンの権威に反抗した。

* 自らが祭司の特権を得ようとした。

* これは、神の権威に対する反抗である。

* 彼らは、地震で割れた地面にのみこまれた。

(2) 背教者たちは、「愛餐のしみ」である。

①初代教会の信者たちは、聖餐式の際に食事をともにした。

②彼らには、神への愛も、隣人への愛もない。

③5つの特徴

* 水のない雲

* 風に吹き飛ばされる雲

* 実を結ばない、枯れに枯れて、根こそぎにされた秋の木

* 自分の恥のあわをわき立たせる海の荒波

* さまよう星(一定の軌道を運行しない)

④「まっ暗なやみが、彼らのために永遠に用意されています」

4. 14～16 節

- 14 アダムから七代目のエノクも、彼らについて預言してこう言っています。「見よ。主は千万の聖徒を引き連れて来られる。

- 15 すべての者にさばきを行い、不敬虔な者たちの、神を恐れずに犯した行為のいっさいと、また神を
 恐れない罪人どもが主に言い逆らった無礼のいっさいとについて、彼らを罪に定めるためである。」
 16 彼らはぶつぶつ言う者、不平を鳴らす者で、自分の欲望のままに歩んでいます。その口は大きなこ
 とを言い、利益のためにへつらって人をほめるのです。

(1) エノクの預言

- ①エノク書（外典）からの引用だと主張する人もいる。
- ②しかし、この手紙の執筆時にはエノク書は存在していなかった。
- ③ユダが聖霊から啓示を受けたと考えるのが妥当であろう。

(2) 「主は千万の聖徒を引き連れて来られる」

- ①主の再臨と裁きの預言
- ②これがすべて成就するのは、千年王国の最後である。
- ③裁きは、白い御座において行われる。

(3) 裁きに会う罪人（背教者、偽教師）の描写

- ①「ぶつぶつ言う者」
 ＊神の摂理的導きに不満を述べ、感謝することを忘れている。
- ②「不平を鳴らす者」
 ＊神の欠点を探し、不満を口にする。
 ＊正統的信仰にケチをつける。
- ③「自分の欲望のままに歩んでいます」
 ＊無律法主義者
- ④「その口は大きなことを言い」
 ＊人々の関心を買うため
- ⑤「利益のためにへつらって人をほめるのです」
 ＊利益のために二枚舌を使う。

III. 背教を避けるための指針（17～23 節）

A. 使徒たちの教えを思い起こせ（17～19 節）

1. 17～18 節

- 17 愛する人々よ。私たちの主イエス・キリストの使徒たちが、前もって語ったことばを思い起こして
 ください。
 18 彼らはあなたがたにこう言いました。「終わりの時には、自分の不敬虔な欲望のままにふるまう、
 あざける者どもが現れる。」

(1) パウロの教え（使 20：29～30）

- 29 私が出発したあと、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、群れを荒らし回ることを、私は知っています。
- 30 あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こるでしょう。

- ①1 テモ 4：1
- ②2 テモ 3：1～5
- ③2 テモ 4：3～4

(2) ペテロの教え (2 ペテ 2：1～3)

- 1 しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現れるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。
- 2 そして、多くの者が彼らの好色にならい、そのために真理の道がそしりを受けるのです。
- 3 また彼らは、貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食べ物にします。彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行われており、彼らが滅ぼされないままにいることはありません。

- ①2 ペテ 3：3～4
- ②ユダ 1：18 は、パウロの教えの要約であり、2 ペテ 3：3 の引用である。

2. 19 節

19 この人たちは、御霊を持たず、分裂を起こし、生まれつきのままの人間です。

(1) 背教者（偽教師）の特徴

- ①新生していないので、聖霊の内住がない。
- ②分裂を起こす。
- ③生まれながらの罪人である。

B. 自分自身の霊的成長に励め (20～21 節)

1. 20～21 節

- 20 しかし、愛する人々よ。あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、聖霊によって祈り、
- 21 神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに至らせる、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

(1) 背教者との対比 (しかし、あなたがたは)

- ①使徒たちの教えを思い起こし、自分自身の霊的成長に目を向ける。

(2) 4つの命令

①自分自身を築き上げる。

- * 自分の持っている最も聖い信仰をさらに育てる。
- * これは、使徒たちの教えの上に築かれた信仰である。
- * 「聖徒にひとたび伝えられた信仰（教理）」（3 節）

②御霊によって祈る。

- * 異言の祈りではない。
- * 聖霊の促しによって祈る祈りである。
- * 聖霊の力による祈りである。

③神の愛のうちに自分自身を保つ。

- * 「神の愛によって自分を守り」（新共同訳）
- * 神の愛に留まるということ。
- * ヨハ 15：9～10

- 9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。
- 10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。

④主イエス・キリストのあわれみを待ち望む。

- * 携挙こそ、キリストのあわれみの究極的な表れである。
- * これによって、「永遠のいのち」の実質が明らかになる。

C. 隣人に恵み深くあれ（22～23 節）

1. 22～23 節

- 22 疑いを抱く人々をあわれみ、
- 23 火の中からつかみ出して救い、またある人々を、恐れを感じながらあわれみ、肉によって汚されたその下着さえも忌みきらいなさい。

(1) 偽教師に惑わされている信者への配慮

- ①信仰がぐらついている人たちを批判してはならない。
- ②愛と憐みをもって、彼らを建て上げるべきである。

(2) 救われていない人たちへの配慮

- ①彼らは滅びつつある。
- ②永遠の滅びから彼らを救うのは、火の中からつかみ出して救うことである。

(3) 「ある人々」への配慮

- ①彼らは、偽教師の教えに深く影響された人たちである。
- ②自分も悪影響を受けないように、恐れを感じながらあわれみを示す。
- ③「肉によって汚されたその下着さえも忌みきらいなさい」
 - *ツアラアト患者の衣服は燃やされた（レビ 13：47～52）。
 - *その人の罪と関係のある物はすべて、遠ざけること。
 - *物が誘惑のきっかけになることがある。

IV. 頌栄（24～25 節）

1. 24～25 節

- 24 あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に、
- 25 すなわち、私たちの救い主である唯一の神に、栄光、尊厳、支配、権威が、私たちの主イエス・キリストを通して、永遠の先にも、今も、また世々限りなくありますように。アーメン。

- (1) 父なる神は、私たちを背教者から守ってください。
「あなたがたを、つまづかないように守ることができる方」
- (2) 父なる神は、私たちを栄光の御前に立たせてください。
「傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方」
- (3) 父なる神は、唯一の神である。
「私たちの救い主である唯一の神」
 - ①父なる神は、救いの計画を立ててくださった。
 - ②そのために御子を犠牲にしてくださいました。
- (4) イエス・キリストを通して、父なる神をほめ称える。
「栄光、尊厳、支配、権威が、イエス・キリストを通して、永遠の先にも、今も、また世々限りなくありますように。アーメン」
- (5) ユダは、書くべきことを書き終えた。

結論

A. 7つの命令

1. 3 節

3 愛する人々。私はあなたがたに、私たちがともに受けている救いについて手紙を書こうとして、あらゆる努力をしていましたが、聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。

2. 17 節

17 愛する人々よ。私たちの主イエス・キリストの使徒たちが、前もって語ったことばを思い起こしてください。

3. 20 節

20 しかし、愛する人々よ。あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、

4. 20 節

20 聖霊によって祈り、

5. 21 節

21 神の愛のうちに自分自身を保ち、

6. 21 節

21 永遠のいのちに至らせる、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

7. 22～23 節

22 疑いを抱く人々をあわれみ、

23 火の中からつかみ出して救い、またある人々を、恐れを感じながらあわれみ、肉によって汚されたその下着さえも忌みきれいなさい。

B. 現代の異端

1. 異端の代表的な誤り

- (1) イエスは神ではない。
 - ①イエス・キリストの二性の否定
 - ②イエスは被造物である。
 - ③イエスの死は、私たちの罪の代価としては不十分である。
- (2) 救いは信仰によるのではない。
 - ①救いは業によって得られる。
 - ②業による救いを目指して励むことが信仰である。

2. 異端を問題視する理由

- (1) 異端の教えを信じている人の中には、「善良な人」が多くいる。
 - ①しかし、人は「熱心さ」や「善良さ」によって救われるのではない。

- (2) 異端の教えを受け入れる人は、「救われていない状態」に留まり続ける。
 - ①それゆえ、異端に対する寛容な姿勢はあり得ないことである。



無断複製・転載を禁じます

2015年10月開催